

## もくじ

- ・ いのち 命のろうそく

# いのち 命のろうそく

げんさく 原作： にほん むかしばなし 日本の昔話

イラスト： kotokoto

へんしゅう 編集： YellowBirdProject

むかしむかし、ある村に、弥助むら やすけという、とても貧乏びんぼうな男おとこが住んでいました。

ある晩、寝床で休んでいた弥助の耳やすけ みみに、ごそごそと、人ひとの話はなし声こえのようなものが聞きこえてきました。

「ん？・・・だれだよ、こんな夜中よなかに・・・」

弥助やすけが目めを開あけると、なんと目めの前まえに、しわだらけのおじいさんの顔かおがあったのです。おどろいた弥助やすけは、布団ふとんから飛とび上あがりました。

「うわ！な、なんだあんたは！！」

「おれは『死神しにがみ』だよ」

「し、死神しにがみだと！」

さらにおどろいた弥助やすけは、もう立たち上あがれなくなってしまうました。



5

「い、いやだ・・おれはまだ死しにたくねえよ～」

「・・いや、まだお前まえさんの番ばんじゃないよ。

それよりどうだい。おれと組くんで、ひとつ金儲かねもちけして  
みる気きはないか？」

「金儲かねもちけ？・・いったいどういうことだ」

「いいか、おれの姿すがたは、他のやつほかには見えん。おれが  
病人びょうにんの『足元あしもと』に座すわったら、そいつはもう助たすからない。

だが、おれが病人びょうにんの『枕元まくらもと』に座すわったら、そいつの病気びょうき  
は必かなず良よくなる」

「そ、そうか。病気びょうきが治なおるか治なおらないかがわかれば、  
それを利用りようして、金儲かねもちけができるってわけか」

「そういうことだ。お前まえさん、なかなか頭あたまの回まわ  
やつだな。よし、まず試ためしに、明日あすの朝あさ一いちに、村むらの  
じろべえの家いえにいけ」

「わかった。おれに任まかせてくれ」

話はなしが終おわると、死神しにがみはまるで煙けむりのようきに消きえて  
しまいました。

